

DINO DE LAURENTIIS presents PAUL NEWMAN in The DAVID SUSSKIND Production of A ROBERT ALTMAN Film
"BUFFALO BILL AND THE INDIANS, or SITTING BULL'S HISTORY LESSON" and BURT LANCASTER

西部開拓の英雄、インディアン討伐の比類なき勇士……
アメリカ最初の偉大なヒーローをめぐる知られざる真実!
1976年ベルリン映画祭グランプリ受賞

ビッグ・アメリカン

バッファロー・ビルの生涯と伝説

ポール・ニューマン
バート・ランカスター
ジェラルディン・チャップリン ● ジョエル・グレイ
ウィル・サンブソン ● ハーベイ・ケイテル



監督ロバート・アルトマン
製作ロバート・アルトマン/デビッド・サスカインド
脚本アラン・ドルフ/ロバート・アルトマン
撮影ポール・ローマン
音楽リチャード・バスキン
カラー作品 ● ディーノ・デ・ラウレンティス・プロ作品
TOWA 東宝東和提供

賛否両論！世界中をゆさぶっているこの衝撃！

■ユーモアが織り込まれ、アルトマン流の華やかな雰囲気、映画である。ショービジネスの趣きから、泥臭いカウボーイとインディアンとの連中まで、セッティングは実にリアルである。
(米・CUEより)

■伝説の虚飾をひつべがした面白さ。いかにもアルトマンらしいひねりのきいた作風が光っている。
(深澤啓也氏映画評論家)

■アルトマンは誇大もう想狂のビルを暴露しようとした。それはとても真面目な伝説であり、死者の墓の上で、タツプダンを踊るよりも簡単に、臆病者のすることである。
(米・VARIETYより)

■建国二百年祭に沸きかえるアメリカの歴史。伝説・英雄時代の実態をユーモアと、ベーツツに満ちた風刺で鋭く考察している。
(シテイロードより)

■西部劇に出てくるヒーローがこんなに滑稽で愉しく表現されている映画はなかった。
(伊藤明さん学生20歳)

■意表をつかれた面白さです。ワイルド・ショーのもの凄さには驚きました。
(高橋光子さんOL22歳)

■これはまさに現代のアメリカを痛烈に叩きつけた、爽快で、楽しい、はなやかな、一大スペクタクルである。
(植草信和さんキネ旬編集部)

■今日の素材を西部劇という類型にほめこみ、みごとに人間ドラマに昇華した例は、私の知る限りはじめてだ。しかもこの大胆な試みに挑み、アルトマンの期待に応えたニューマンの快演。
(増淵健氏映画評論家)

BUFFALO BILL AND THE INDIANS OR SITTING BILL'S HISTORY LESSON



●新しい時代の新しい感覚の映画！
「明日に向けて撃て！」以来の衝撃と、アメリカの若者たちの心をゆさぶっている、痛快でユーモラスな新しい感覚の映画がやって来た。建国二百年を迎えたアメリカでは、新しい時代に向けて「ロッキーマン」「タクシー・ドライバー」など、従来のスタイルをぶち破る全く新鮮な感覚のシネマが続々と登場しているが、この「ビッグ・アメリカン」こそ、その新しい波の口火を切った作品なのだ。
今まで伝えられていた西部のヒーローたちの姿を根底からひっくり返した衝撃は、各国で賛否両論、真つ二つの大反響を巻き起こし、記録的な大ヒット。世界中の話題をさらい、遂にはベルリン映画祭グランプリに輝いた。

●痛快なストーリー！
時は1885年、開拓の時代は終わろうとしていた頃。バッファロー・ビルのワイルド・ウエスト・ショーは大成功を収めていた。この映画は、その時代の波にスポットを当て、アメリカが生んだ最初のスターの生きざまを、現代に通じる人間ドラマとして描いた痛快な物語である。

●ビッグなオールスター・キャスト！
バッファロー・ビル、アーニー・オークリー、シテイキング・ブル、ネッド・バントリン等の実録ヒーローたちが総登場する映画だけに、出演するスターがこれまた豪華版。「タワリング・インフェルノ」のポール・ニューマン。「カサンブラクス」のバート・ランカスター。「動と静」の二大スターの初顔合わせの激突が最高の見所となっているが、その他に「ドクトル・ジバゴ」のジェラルディン・チャップリン。「キャバレー」でアカデミー賞に輝くジョエル・グレイ、「カッコーの巣の上で」の演技派ウィル・サンブソンと、信じられない顔ぶれである。

●話題のスペクタクル・ショー
開巻アツと驚く凄まじいインディアンの襲撃シーンが展開される。これが今、話題を呼んでいる「ビッグ・アメリカン」のワイルド・ウエスト・ショーである。このショーは、カウボーイによる野牛狩り、白人対インディアンの戦闘、駅馬車への襲撃シーン、馬上からのガンプレイと、もの凄いスペクタクル・シーンのつるべ撃ちだ。

●戦う男！アルトマンの最高傑作！
この痛快な映画を作ったのは、「マッシュ」の痛快な映像美は、世界中の若者たちに熱狂的支持を受けている。また、「戦う男」と呼ばれ、絶対に信念を曲げないアルトマンは、撮影中、総指揮をとる世界No.1プロデューサーである「キングコング」のデイビー・テラウレンティスと大衝突。ハリウッド中を騒がせたが、そのエネルギーがこの傑作を生み出したのである。

●「ビッグ・アメリカン」ひとくちメモ
①バッファロー・ビルがこれまで登場した作品は、ジョエル・マククリーの「西部の王者」をはじめ、「平原児」「ホンド」等があるが、「ビッグ・アメリカン」のような人間的なビルは初めて。
②シテイキング・ブルは、あの有名なカスター將軍を殺したスー族の大酋長だが、「大酋長」でJ・キャロル・ナイシュが演じた他、「小さな巨人」にも登場。
③アーニー・オークリーは「アーニー」を演じたのと、同じ西の西部No.1女ガンマン。
④P・ニューマンが西部の英雄を演じるのは「左ききの拳銃」「明日に向けて撃て！」「ロイ・ビーコン」に続いて四度目。

東宝東和提供/アメリカ映画

カラー作品/パナビジョン/ディー・ノ・デ・ラウレンティス・プロ

1976年ベルリン映画祭グランプリ受賞

ビッグ・アメリカン



★近日ロードショー

有楽町 日劇前 ニュー東宝 シネマ2 (571) 1947